

幼稚園教育実習における学生の学びに関する一考察 —指導案作成のための授業改善の試み—

岩谷 恵利子* 上月 康代**

要旨

本研究は、「環境を通して行う」ことが基本の幼児教育において、幼児が望ましい方向に発達していくための適切な指導案作成について、学生の実態から指導の在り方を探った。そこで、保育のねらいにつながる指導案の考え方を理解するために「環境構成」に着目した。その方法として、学生の指導案の記述内容を分析したところ、保育の意図した仕掛けや配慮に欠け、綿密な指導案の作成に至っていないことが明らかとなった。その傾向を基に、授業担当者が保育者役、学生が幼児役と観察者に分かれ、2回の模擬保育より気付いた点を記録し、そこから指導案作成へと段階的な方法を繰り返すことで、意味のある指導案を作成することができると考えた。受講している全学生が同じ模擬保育を観察し指導案作成に取り組んだことにより、記述についての理解が深まったと言える。このことが、授業後の幼稚園教育実習における指導案の作成に応用できるものと考えられる。今後は、この方法を継続しながら学習効果を高めていきたい。

キーワード：指導案作成、環境構成、保育の意図、模擬保育、幼稚園教育実習

1. はじめに

幼児教育は、「環境を通して行う教育」が基本とされている。幼児一人一人の興味や関心によって自発的・意欲的に関わることができるような環境を構成することが保育者の役割である。

環境を通して行う教育について、開は「保育者は子ども一人ひとりの相応しい時期に、自ら積極的に働きかけたいという意欲をもてるような環境を計画的に構成する」¹⁾とともに、それが「保育のねらいを達成できる活動である」²⁾と述べている。つまり、幼児の環境に関わり「面白いな!」「もっとやりたい」と考えたり試したり確かめたりして心を動かして遊ぶ姿から、保育者は、「何を楽しんでいるのか」「何を面白く感じているのか」という内面を捉え、よりよい育ちにつながる環境を構成していかななくてはならないということである。

さらに、幼稚園教育指導資料第1集には「幼児期にふさわしい生活が展開され、適切な指導が行われるよう、組織的、発展的な指導計画が作成されることが大切」³⁾と述べられている。幼児が望ましい方向に向かって発達していくために適切な指導として保育のねらいを踏まえた指導計画の作成、つまり「指導案」を重要視しなければならない。

しかし、学生の保育実習^{註1)}後の感想では「楽しかった」と、幼児と一緒に生活することの楽しさを味わっている反面、一番困難を感じたり負担に思ったりしたことは実習日誌の記述や指導案の作成であり、「よく分からない」「どう書けばよいのか言葉が出てこない」「難しい」と感じている。このことが、さらに次の幼稚園教育実習への不安を募らせている。学生は実習において必要となる指導案作成の基本指導を考えると、「学校で指導を受けたこととは違う」と戸惑いを示すことがある。橘田は「1本の指導案にじっくり取り組むことで、書き方の決まりやコツを知り、その基本をアレンジすることで、他の指導案に応用できる。この応用力があれば、実習先から異なる形式や書き方を指導されても比較的スムーズに対応できる」⁴⁾と述べている。従って、指導案の基本的な考え方が理解できていれば、先述の学生の戸惑いは解消できると考える。ま

た、指導案作成の手順や形式は一定のものではなく、幼児の生活に応じた保育を展開するために各園で工夫し作成することが求められている。将来、保育者となるために指導計画への理解を深め、実習に活かすことができる指導案の作成を指導する必要がある。

そこで、保育のねらいにつながる指導案の考え方の基本を理解するために、本研究では「環境構成」に着目し、指導案を作成するための指導の在り方を試みる。

2. 目的

本学における学生の指導案の記述の傾向を明らかにし、指導案作成の指導の在り方を探る。

3. 方法

- (1) 第一筆者が担当する科目「教育実習論」(3年次・通年・幼稚園教諭免許・必修)において、学生の指導案の「環境構成」に着目し、記述内容を分析することにより、その傾向を調べる。
- (2) (1)の結果より、指導案作成の理解を深めるための授業の改善を試み、考察をする。

4. 指導案における環境構成の考え方

各園では、保育のための具体的な指導計画が立案され、それに基づき保育が展開されている。『幼稚園教育要領』には保育のねらいは、幼児に育みたい資質・能力である「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱^{註2)}を意識して考えることが明記されている。このことから保育者は、保育のねらいをもって指導案を適切に記述することが非常に重要になってくる。

指導案は事前に保育者が作成し、幼児をねらいに向かわせるために導くものである。しかも、幼児自身の主体性によって自然な無理のない展開が生み出され、ねらいにふさわしい内容にしなければならない。例えば、幼児の興味や関心によって予想される活動の展開ができにくい状況になった場合、保育者の計画通りに行うのではなく、幼児の思いに沿って素材や用具を新たに準備したり物の配置

* 姫路大学

** 湊川短期大学

を変えたりすることにより、環境を柔軟に変化させ再構成していくことである。

また、環境図は保育者や幼児の位置、準備物の配置、動き等を図示することで、その位置関係や動線等が具体的に伝わるようにする。そうすることで、幼児の間隔や場の広がり等が配慮され、活動が活発になったり幼児のイメージするものが実現しやすくなったりする。

環境構成においては、環境図を示したり準備物を記述したりするだけではなく、「人的環境」「自然的環境」「活動に必要な空間」「活動の時間」「その場の雰囲気」等、様々な要素が総合的に絡み合っていると考える。また、環境は流動的なもので、幼児の興味・関心や保育の意図により、常に変化を伴うものである。そのため指導案においても、その変化が分かるように別の環境図を記述する必要がある。

5. 結果

(1) 指導案の記述の傾向

筆者の担当する「教育実習論」において、学生がどの程度、幼児の発達の見通しや活動の予想に基づいて指導案の記述を理解しているか、という実態を把握するために、学生がこれまでに学んだ知識を基に「絵本の読み聞かせ」を主活動とした指導案を作成する課題に取り組ませた。

以下は、学生の作成した指導案における「環境構成」の記述の傾向をまとめた。

① 準備物・記述の表現について

保育に必要と思われる椅子や絵本等の用具や、教材を箇条書き、または文章でメモ程度に記述している(表1)。

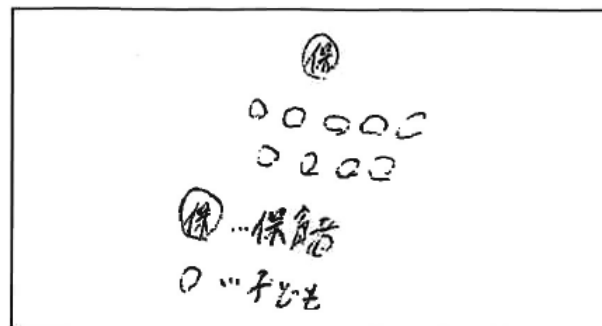
幼児教育が「環境を通して行う」教育であることが、指導案の様式にも反映している。つまり「環境構成」の欄が、左端に位置することで、指導案の構想は、まず「環境構成」から始まるという考え方が表れている。従って「環境構成」には、幼児の育ちを促す「ねらい」を達成させるための保育者が意図した仕掛けや配慮が込められていなければならない。換言すれば、その保育者独自の保育への姿勢、つまり保育観や指導観が表れているものでなければならない。しかし、学生が記述しているメモ程度の準備物では「環境構成」の意味を成していないことになる。

表1 「環境構成」の記述例

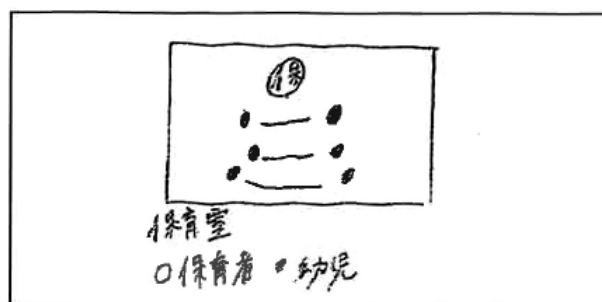
- ・ ドングリを用意する。
 - ・ 絵本「ぐりとぐら」を用意する。
 - ・ 子どもが座るマットを敷く。
- 〈準備物〉椅子・マット・絵本

② 環境図について

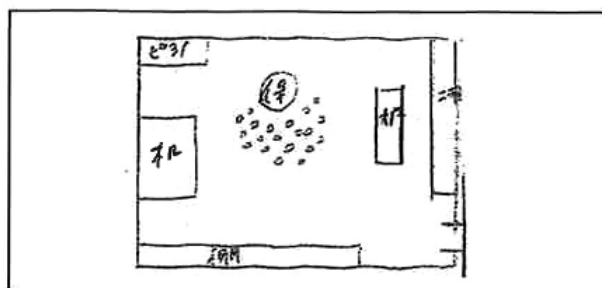
環境構成の欄に、保育室の図のみを記述している指導案が多い。また、ほとんどの学生が、室内の保育者と幼児の位置について示しその図についての説明文は記述されていない(図1①～③)。



① 保育室を表す枠がない



② 保育者と幼児のみを表す



③ 主な用具等を図で表す

図1 学生の記述した「環境図」

従って、学生の保育室の図からは室内の方向が読み取れず、室内の使い方や明るさ等への配慮に欠けている。環境図は、保育者や幼児の位置関係、準備物等の配置や動線を表示し、「環境構成」に記述した内容がより明確に理解できるようにするものである。また第三者が見ても保育の場がイメージできるよう、保育者と幼児を区別する目印や室内の方向が分かる最低限の表示(出入口やピアノ等)が必要である。

(2) 指導案作成の実践

以上のような学生の指導案の傾向と考察を踏まえ、筆者の担当する「教育実習論」において、指導案作成の理解を深めるための指導を試みた。

- ① 科目：教育実習論(幼稚園教諭免許・必修)
- ② 開講時期：3年次・通年
- ③ 受講対象学生：3年次18名 4年次3名
- ④ 授業計画：

第1講義 教育実習の意義と目的

- 第2講義 幼稚園教諭の職務内容と職責
- 第3講義 教育実習の流れ・実習記録の意義と書き方
- 第4講義 指導案作成の必要性和意義について学ぶ
- 第5講義 部分実習の目的を理解し、指導案作成について学ぶ
- 第6講義 授業担当者の模擬保育への参加と観察から、気づきを記録する
- 第7講義 気づきの記録から指導案を作成する
指導案の記述について理解する（グループワーク）
- 第8講義 第7講義の内容を深める①（グループワーク）
- 第9講義 第7講義の内容を深める②（グループワーク）
- 第10講義 実習準備①（提出書類・個人票作成）
- 第11講義 実習準備②（実習前オリエンテーションに向けて）
- 第12講義 指導案作成について理解を深める
- 第13講義 実習事前指導・実習生としての心構え
- 第14講義 実習事後指導①
- 第15講義 実習事後指導②

⑤ 実践経過（第4講義～第9講義）

第4講義 2022年5月31日（火）

- ・テキスト^{註3)}に基づき、指導の内容や方法を予想して指導計画を立てる必要性和意義について学ぶ。
- ・課題として、保育実習（2022年6月13日～24日）後、自ら選んだ絵本を取り上げ、部分保育の指導案を作成する。

第5講義 2022年6月28日（火）

- ・資料「指導案の書き方」^{註4)}を配布し、指導案の各項目の記述方法を学ぶ。
- ・前回、課題とした「絵本の読み聞かせ」の指導案を、配布資料の「指導案の作成ポイント・チェックリスト」^{註5)}に基づき確認する。

第6講義 2022年7月5日（火）

- ・保育者役の筆者が、絵本「おおきなかぶ」^{註6)}の読み聞かせで15分間の模擬保育を2回実施する。
- ・学生は幼児役と観察者の2グループに分かれ、2回の模擬保育で役割の交代をする。
- ・模擬保育の観察者となり記録を取る学生は、模擬保育を観察しながら保育者の言動や準備物等、気付いたことを記録用紙（表2）に記述する。

表2 記録用紙（A4判）

年月日	令和 4 年 10 月 日()	対象児	組(年保育 4 歳児)
保育者			男児 名、女児 名 計 名
幼児の姿	園庭の畑で育てているサツマイモのつるが長く伸びているのを見て、大きなサツマイモが収穫できることを心待ちにしている様子が見られる。 A 児は、絵本やブロックなど一人遊びを好み、友達からの誘い掛けにもほとんど参加しない。	ねらい	○友達と一緒にイメージを膨らませながら絵本の楽しさを共有し、展開の面白さを味わう。 ・絵本「おおきなかぶ」を見ることを喜ぶ。 ・友達や教師と一緒に、繰り返し言葉の掛け合いをして遊ぶ。
		主な活動	絵本「おおきなかぶ」を見る。 内田莉沙子 再話/佐藤忠良 画 福音館
時刻	予想される幼児の活動	気付いた点	
13:30	○絵本を見る。 ・保育者の周囲に集まる。 ・保育者の話を聞く。 ・絵本を見る。 「おおきなかぶ」 ・自分の思いを話す。	・絵本を見せるとき、保育者はピアノの前に座っている。	
13:45			

表3 学生が記述した記録用紙

年月日	令和 4 年 10 月 日()	対象児	組(2 年保育 4 歳児)
保育者			男児 6 名、女児 13 名 計 19 名
幼児の姿	園庭の畑で育てているサツマイモのつるが長く伸びているのを見て、大きなサツマイモが収穫できることを心待ちにしている様子が見られる。 A 児は、絵本やブロックなど一人遊びを好み、友達からの誘い掛けにもほとんど参加しない。	ねらい	○友達と一緒にイメージを膨らませながら絵本の楽しさを共有し、展開の面白さを味わう。 ・絵本「おおきなかぶ」を見ることを喜ぶ。 ・友達や教師と一緒に、繰り返し言葉の掛け合いをして遊ぶ。
		主な活動	絵本「おおきなかぶ」を見る。 内田莉沙子 再話/佐藤忠良 画 福音館
時刻	予想される幼児の活動	気付いた点(メモ)	
13:30	○絵本を見る。 ・保育者の周囲に集まる。 ・保育者の話を聞く。 ・絵本を見る。 「おおきなかぶ」 ・自分の思いを話す。	・絵本を見せるとき、保育者はピアノの前に座っている。 ・石や土をサツマイモの葉っぱや土に落とす。 ・手遊びも通して、A 児も参加できるように。 ・全員が見ると確認。 ・F の名前を2回呼ぶ。 ・座り位置の問いかけ。 ・言葉遊びのやり取り、A 児に促す。 ・全員で言葉のかけあいを。 ・合図も出る。 ・表紙も見てもらう。 ・A 児の気持ちに気づく。 ・F の名前を2回呼ぶと参加する様子。	
13:45			

予想される幼児の活動	気付いた点
○絵本を見る。	①絵本が見えにくい場所を確認している。
	②椅子に座って読んでいる。
	③床に一人一人の位置にシールを貼っている。
	④絵本がしっかり見えるか、子どもたちに聞く。
	⑤途中で「うんとこしょ」の掛け声をみんなでしていた。
○自分の思いを話す。	⑥読み終わったあとに、絵本を棚の上に置きに行った。

- ・ 2 回目の模擬保育のあと、自分の記録を基に、1 グループ 4 ～ 5 人で互いの気づきを話し合う。その際、新たな気づきはカラーペンで加筆し、記録を共有する。
- ・ 記録を基に、読み聞かせ「おおきなかぶ」の指導案を作成する（1 回目）。これらの模擬保育における観察時の気付いた点を、保育者が「なぜそうするのか」「そうすることによって、どのような意味があるのか」等、保育者の意図を考え「～できるように」「～のために」の接続語でつなぐことで「環境構成」の記述となることを指導する。

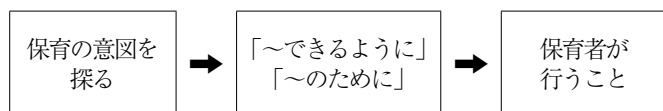



表5 気付いた点から指導案作成へ

気付いた点	指導案の環境構成
①絵本が見えにくい場所を確認している。	・絵本に集中できるように、絵本が見える場所を伝える。
②椅子に座って読んでいる。	・幼児の表情が把握できるように、また目線の高さを考え、幼児椅子を使用する。
③床に一人一人の位置にシールを貼っている。	・新型コロナウイルス感染防止のため、幼児同士が適度な間隔を保つことができるよう、床にシールを貼っておく。
④絵本がしっかり見えるか子どもたちに聞く。	・前後、左右の幼児同士が狭い間隔になり絵本を見る妨げにならないよう、ゆったりとした空間を確保する。
⑤途中で「うんとこしょ」の掛け声をみんなでしていた。	・幼児が一緒に声を掛け、楽しめる雰囲気をつくる。
⑥読み終わったあとに、絵本を棚の上に置きに行った。	・自由に絵本を見ることができるよう、幼児の目に付く場所に置く。

- ・絵本「おおきなかぶ」^{註7)}の読み聞かせの指導案を「指導案の作成ポイント・チェックリスト」と照らし合わせ、自分の記述について確認をする。
- ・指導案を記述するにあたって、学生の質問に対応しながら個々に、または全体に具体的に説明をする。
- ・1回目に作成した指導案の修正を行い、2回目の指導案を作成する(表6)。

月 日	7月19日(火)曜日		組 (2年保育 4歳児)
保育者		対象児 男児6名 女児13名 欠席の名計19名	
幼児の姿	<p>・園庭の隅で遊んでいるワツバシモのつぼが、長く伸びているのを見て、大きなワツバシモか?と疑ってそこをよじ登りたしている様子が見られる。 ・A児は、鉄棒やプロウパズ儿、遊び道具から、友達からの誘いに誘われて遊びに行く。</p>	<p>(こ) (ねい) + 内 容 (.)</p>	<p>○友達と一緒にゲームをする時、お母さんやお父さんから食事や準備に必要になるものを取り出す時、鉄棒やプロウパズ儿を見ることが多い。 ・友達や服部セー子と一緒に、帰りに公園の横へ行って遊ぶ。</p>
時間	環境構成	幼児の活動	保育者の援助・留意点
{3:30}	 <p>・保育者の後ろに何人もついて進んで座る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○鉄棒を見る - 保育者の話を聞く。 - 右手と左手を知ろうとしている。 - 手遊びをする。 	<p>・どちらが右手か左手かのクイズを出すことで、右手と左手を正しく知ることができるようになる。</p> <p>・保育者に集まり、端っこに並ぶように促す。</p> <p>・子どもから見て左右を理解できるように、保育者が鏡のようにクイズを出す。</p> <p>・手遊びを通して、注意が散らけている。もう一度集中して参加できるように手遊びを増やすように、大工屋先生にお願いする。</p>
{3:45}	<p>「おおきなおかね」を用意紙</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 鉄棒を見る - 「おおきなおかね」 - 自分の思いを語る。 	<p>・言葉が見えぬように座っている位置を確認する。</p> <p>・鉄棒に腰掛けてもらうように、鉄棒を取っているか確認する。</p> <p>・鉄棒を手触れするように、登り人形をつける。言葉のかけあいをする。</p> <p>・合図を出したとき、言葉のかけあいを増やすようにする。</p> <p>・途中で話しかける子どもに対して、ストップワードの手配をおこなう。</p> <p>・鉄棒を最後まで使われているように、自然声や表情を見ていく。</p> <p>・鉄棒の手を止めたときどのようにしても言葉が出てこないことを確認する。</p> <p>・自分の思いが読めるのか自分で考えているように、思いが読めれば褒めたり気持ちを理解し取る。</p> <p>・ワツバシモを登るとともに期待が持てるように話す。</p>

- ・引き続き「引越しゲーム」(フルーツバスケット)の活動を同様の方法で実施する。

本研究では、学生が作成した指導案の内容を分析し、その傾向を明らかにすることにより、授業改善の方向性を見出そうとした。

学生の指導案の傾向から「ねらい」を達成するための保育の手立てが、「環境構成」の文章表現および環境図に具体的に記述されていないことが分かった。従って「ねらい」につながる保育者の意図が明確に「環境構成」に反映されていないことが課題として挙がる。つまり「何のためにそのような準備をするのか」「何のためにカーテンを閉めるのか」「何のためにそのような座り方をするのか」等、「何のための」保育者の配慮であったかを意識して記述することが必要である。

授業において、第4講義のような単に活動のみを提示した指導案を作成することは、学生には保育の場のイメージが広がりにく

い。例えば「絵本の読み聞かせ」の保育場面は大まかに想像できても、保育の意図を含んだ保育者の詳細な動きや場の設定等は、実習のみの保育経験の浅い学生には気付くことが困難である。従って、筆者が保育者役となり、学生が幼児役と観察者を交代し合う模擬保育の形態を取ることで、学生が直に保育に関わり、同じ保育場面を共有することで学習の効果が高まると考えた。

この模擬保育に参加したり観察したりすることを通し、学生には気付いた点を記録させた。気付いた点とは、保育者の言動や準備物等である。「なぜ、そうするのか?」「ああ、そうか!」等、学生が予想していなかった新たな発見部分であり、それを見たまに記述させるようにした(表3)。このような疑問や気付きの中には、保育者の意図が含まれていることが多く、学生が指導案を作成するために段階的に思考する方法であると考えた。そしてこれらの気付きを「なぜ?」と自分に問い掛けながら答えを見出し(表4)、それを繰り返すことで意味のある指導案を作成することができると考える。授業においてこの方法を個別および全体で指導することにより、「なぜ?」の答えが様々に挙がることが期待できる。それが指導案作成の面白さでもある。

なお、この方法は、本実践においては指導案の「環境構成」のみに焦点を当てたが、「保育者の援助」にも該当する。

7. おわりに

本研究は、学生が作成した指導案の「環境構成」に着目し、記述の傾向を探ることであった。

その結果、学生の記述からは保育観や指導観が表れていると言え、また、環境図を記述することの意味が理解できていないことが課題として挙げられた。そのため、「教育実習論」を受講する学生が同じ模擬保育の場面を観察・共有し、指導案を記述する方法を取り入れたことにより、記述すべき情報が明確になり「ねらい」に沿った内容を指導案の様式に反映させ、保育者の意図を意識して作成し始めている。

今後も、この方法を継続して取り組んでいきたい。さらに、「保育者の援助」等、他の項目についても同様の方法で記述の理解を深めるとともに、他教員が担当する科目においても教員間で連携を図り指導方法を共有することにより、学習効果を高めていきたい。

註

- 1) 2年次に「保育実習Ⅰ」において、2週間の保育所・こども園の実習を行っている。
- 2) 文部科学省『幼稚園教育要領』(2018)フレーベル館「第1章 総則」による。
- 3) 講義に用いているテキスト、「田井敦子『教育実習事前・事後指導(幼稚園)』(2018)姫路大学教育学部 通信教育課程 第6章 指導計画と実習」による。pp.27-48
- 4) 開仁志[編著]『保育指導案大百科事典』(2015)、一藝社、「指導案作成のポイント」の一部を参考に資料を作成する。
- 5) 開仁志[編著]『保育指導案大百科事典』(2015)、一藝社、第3章「指導案作成のポイント」の「チェックリスト」を参考資料とする。
- 6) 絵本『おおきなかぶ』(1966) 作者:内田莉沙子/挿絵:佐藤

忠良/福音館書店

7) 同上書

引用文献

- 1) 開仁志[編著]『マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ 保育内容総論』(2019)一藝社 p.115
- 2) 同上書
- 3) 幼稚園教育指導資料第1集『指導計画の作成と保育の展開』文部科学省(2013) p.3
- 4) 橘田重男『教育実習における指導案作成に関する一考察』信州豊南短期大学紀要 第28号 pp.69-70

参考文献

- ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』(2018)フレーベル館
- ・厚生労働省『保育所保育指針解説』(2018)フレーベル館
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(2018)フレーベル館
- ・島崎善明/幼児の保育活動研究会 編著『保育活動事例集②人間関係―人とかかわりに関する領域―』(2000)チャイルド本社
- ・開仁志[編著]『マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ 保育内容総論』(2019)一藝社
- ・名須川知子/大方美香[監修] 亀山秀郎[編著]『保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園実習』(2018)ミネルヴァ書房